

伊藤園(2593)



— 業績回復ながら利益率の一層の改善が課題 —

伊藤園が1日に発表した上半期(5月-10月期)の業績は増収増益となりました。売上高は主力の日本茶などの販売が堅調に推移したほか、海外でコーヒー豆の生産・販売会社DLTC社を買収したこともあって前年同期比8%の増収となりました。また、増収効果に加え、経費の抑制もあり営業利益は同23%増と計画を上回りました。

消費増税の影響が薄れるなか消費増税の影響で落ち込んだ売上高は消費増税前の水準に戻りつつあります。コーヒー豆の生産・販売会社を買収した影響で売上高が膨らんだこともあって連結ベースでは比較しにくいいため単体で売上高を比べてみると、今期の単体売上高見通しは3653億円と、消費増税前の2014年4月期の3634億円をやや上回る水準になる見込みです。

しかし、利益水準は2014年4月期の水準を大きく下回ったままです。今期の単体の営業利益は101億円の見込みで、2014年4月期の160億円に遠く及びません。このため消費増税前に5%程度あった連結営業利益の利益率は前期の2%台から改善するものの3%台にとどまる見込みです。

今期の営業利益は従来予想を1億円上回る前期比32%増の151億円となる見込みで、5割近い営業減益となった前期から今期は回復が期待されています。消費増税前の利益水準を維持している飲料メーカーもあるなかで5%という以前の営業利益率をいかに取り戻すのが今後の課題だといえそうです。

ご留意いただきたい事項

マネックス証券(以下当社)は、本レポートの内容につきその正確性や完全性について意見を表明し、また保証するものではありません。記載した情報、予想および判断は有価証券の購入、売却、デリバティブ取引、その他の取引を推奨し、勧誘するものではありません。当社が有価証券の価格の上昇又は下落について断定的判断を提供することはありません。

本レポートに掲載される内容は、コメント執筆時における筆者の見解・予測であり、当社の意見や予測をあらわすものではありません。また、提供する情報等は作成時現在のものであり、今後予告なしに変更又は削除されることがございます。

当画面でご案内している内容は、当社でお取扱している商品・サービス等に関連する場合がありますが、投資判断の参考となる情報の提供を目的としており、投資勧誘を目的として作成したものではありません。当社は本レポートの内容に依拠してお客様が取った行動の結果に対し責任を負うものではありません。投資にかかる最終決定は、お客様ご自身の判断と責任でなさるようお願いいたします。

本レポートの内容に関する一切の権利は当社にありますので、当社の事前の書面による了解なしに転用・複製・配布することはできません。

当社でお取引いただく際は、所定の手数料や諸経費等をご負担いただく場合があります。お取引いただく各商品等には価格の変動・金利の変動・為替の変動等により、投資元本を割り込み、損失が生じるおそれがあります。また、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化等により、投資元本を割り込み、損失が生じるおそれがあります。信用取引、先物・オプション取引、外国為替証拠金取引をご利用いただく場合は、所定の保証金・証拠金をあらかじめいただく場合がございます。これらの取引には差し入れた保証金・証拠金(当初元本)を上回る損失が生じるおそれがあります。

なお、各商品毎の手数料等およびリスクなどの重要事項については、「[リスク・手数料などの重要事項に関する説明](#)」をよくお読みいただき、銘柄の選択、投資の最終決定は、ご自身のご判断で行ってください。

マネックス証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第165号
加入協会: 日本証券業協会、一般社団法人 金融先物取引業協会、一般社団法人日本投資顧問業協会